校長室便り

平成29年
11月8日号
編集・発行　校長
高鷲中学校
072－955－4488

２年生で研究授業を行いました

先日、２年生の３クラスで研究授業を実施しました。高鷲中学校では「生徒の『考える力』を育てる」をテーマに、今年度各教科において、従来の一斉講義型の授業だけではなく、生徒たちが主体的に学びあう授業をどう展開していくかを考え、取り組んでいます。

私は３クラスの中で、社会科の授業を見学しました。内容は「豊臣秀吉の統一政策」だったのですが、生徒達に「太閤検地の目的は何か」「刀狩の目的は何か」「なぜキリスト教を禁止したのか」ということを考えさせ、班で討議した結果を発表させるという授業でした。　生徒たちは班長を中心に、意見を出し合いながら班の意見をまとめて発表していました。まだまだ討議の仕方、意見のまとめ方、発表を聞く姿勢等、改善していかねばならない面もたくさんありますが、このような授業を通して、生徒たちが「思考力・判断力・表現力」を身につけていけるように各教科で取組みを進めていきます。

私は教科の授業を離れて９年になりますが、この間にＩＣＴ機器の導入、「知識・理解だけではなく思考力・判断力・表現力を育む授業」の展開等、中学校の授業は大きく変化してきました。しかし、一方で授業において大切な説明はしっかりと聞かせる、教師の指示は徹底させる等、これまで大切にしてきたことは変わらないのは言うまでもありません。「新しく取り入れていくこと」と「今までどおり取り組んでいくこと」をうまく組み合わせながら、高鷲中学校の授業スタイルを構築していくことが大切だと感じた研究授業でした。

子どもを成長させるためには「自分で決める・過程を褒める・共に考える」

先日、教育関係の雑誌を読んでいたのですが、「子どもに自信を持たせるにはどうすればよいか」という記事がありました。なかなか考えさせられることが多く、私も共感できる部分も多い記事でした。いくつか要点を書いてみたいと思います。

ポイント①　子ども自身が決めるように促す

　例えば、「明日はテストだから 17 時から勉強しなさい」と“指示”するのではなく、「明日はテストだけど、何時から勉強するの？」と“問いかけ”、子ども自身が決めるようにします。自分で決めたことは守ろうとするもの。すると、必然的に自分から勉強しようという気持ちになり、それがうまくいくと自信になります。ただ、子どもに決めさせるというのは案外難しいこと。私自身も自分の担任時代を振り返ると、ついつい先回りして指示をしていました。全てを子ども主体にしていては、保護者もストレスがたまってしまいますから、一日一回でもよいので、口に出して指示をしてしまいそうなときに、ぐっと我慢して子どもに決めさせるように促してみてはどうでしょうか。

　一方で、中学生ではまだ視野が狭く、情報量も少ないので、決めるのは子ども自身でも、決めるための情報やアドバイスを大人から与えることが必要です。情報を得ることで子どもが納得のいく決定ができ、それが自信にもつながります。勉強に限らず、日常の中でも子どもが自分自身で決める機会を増やし、最終的に「自分で決めた」と思わせることが大切だそうです。

ポイント②　結果だけでなくプロセスもほめる

子どもの勉強は、テストの点数や通知表の成績など結果だけを評価しがちですが、結果だけを評価すると、何事も結果がすべてだと思い込んでしまう恐れもあります。子どもが自信をつけるためには、大人は結果の一点だけを見るのではなく、努力のプロセスも見て、ほめることが大切です。仮に以前より点数が下がったとしても努力の跡が見えるのなら、そこをほめる。そうすると、結果が悪くてもダメだと思わずに「努力することが大事なんだ」と捉えることができ、それが自信につながっていきます。

　それでは、結果はほめなくていいのかというとそうではなく、結果は結果としてほめるべきです。ただし、「よくできたね」「じょうずだね」だけでなく、「苦手な問題がよく解けたね」「この色使いが素敵だね」など具体的にほめることが大切だそうです。

ポイント③　答えを先取りしないで共に考える

子どもと一緒に考えることも有効なコミュニケーションです。例えばテストの点数が悪かったとき、「もっと勉強しなさい」で終わらせてしまうと子どもの思考は止まってしまいます。そうではなく、「今回はどうして結果が悪かったんだろう？」と問いかけ、原因を一緒に考える。そして、原因を突き止めたら解決策を一緒に考える。気をつけたいのは大人が答えを先取りしてしまうこと。あくまでも子ども自身に考えさせることが大切です。

「問題の原因を考え」、その原因をもとに「解決策を考える」。この思考パターンが定着すると何か問題が起きたときに自分で考えて解決する力が身につきます。これは勉強だけでなく、生きていくうえで必要な力であり、大きな自信になります。家庭でディスカッションする機会を増やし、一緒に思考力を鍛えることが大切だそうです。

この記事を読みながら、自分自身を振り返って反省すべきことも多々ありましたし、今からでも取り組めることもあると感じました。保護者の皆様はどうでしょうか。